

## ご 挨拶

日本核医学会会長 佐々木 康 人

第35回日本核医学会総会・学術大会はすでにご案内のように10月4日～6日の期間横浜市パシフィコ横浜で開催されます。そのプログラムと抄録集をお届け致します。

演題募集にあたり発表者はお1人1題に限定させて頂きました。今回は合計610の一般演題を発表して頂きます。プログラム委員には抄録の評価ならびに口演とポスター発表の振り分けをお願いしました。演題を厳選し、会場数を減らすべきとのご意見を相当数頂きましたが、今回は評価に基づく演題の採否選定は行いませんでした。今後の学会の課題であると思います。

初めての試みである国際セッションには国内外から37演題の応募を頂きました。これに英語による教育講演17とパネルディスカッションを加えてこのセッションを構成致します。多くの方のご参加をお待ちしております。

日本語による教育講演6題を加え、すべての教育講演は第4(一部第5)会場で行います。一般口演のテーマと極力重複をさける努力をしました。特別講演は東京大学先端科学技術研究センター藤正巖教授に「生物と小さな機械」、ジョンスホプキンス大学ヘンリー・ワグナー教授に「Future of Nuclear Medicine at the Turn of the Century」をお願い致しました。

学術大会の内容の充実を期すると同時に会場の設営と運営を簡素化して経費の軽減を企っております。そのために演者と座長の作業負担が増えますが、宜しくご協力をお願い致します。発表形式が例年と違うところがありますので、「ご案内」を注意してお読み下さい。

学会懇親会は例年通り第2日に開催致しますが、挨拶、祝辞などのフォーマリティを極力排して、真の懇談と会食の場と致します。若い会員の方々も含めて多数ご参加頂きたく存じます。

機器、医薬品展示場の開場式を第1日目に行いますので是非ご参加下さい。

会期中に数々のインフォーマルミーティングが企画されており、原則として会場内で開催されます。その詳細は正規のプログラムにのりませんが、様々な形でご案内することと思います。

10月4日横浜で多数の皆様とお目にかかるのを楽しみに致しております。

(敬称略 五十音順)

— 4 —